

令和4年度 新東淀中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査

＜国語＞ 全国と比較して、「書くこと」領域において、-8.6ポイントと大きく下回る結果であった。また、無解答率が記述式の解答について高い傾向にあり、いずれも10%を超え高いもので30%に迫るものもあった。一方で文脈に即して漢字を正しく書くことや、漢字の行書の読みやすい書き方について理解する問題については、大阪市、全国の平均を共に超えていた。助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使う問題や、漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解する問題に対しては、全国の平均はこえなかったものの大阪市の平均は上回った。

＜数学＞ 全国と比較して、「数と式」領域において、-5.5ポイントと大きく下回る結果であった。「関数」領域においても-4.7ポイントと全国との乖離がみられるが、「図形」で-2.9ポイント、「データの活用」で-2.2ポイントと、その差は小さくなっている。

＜理科＞ 全国と比較して、「粒子」を柱とする領域において、-7.3ポイントと大きく下回る結果で、大阪府と比較しても-5.1ポイントという結果となった。「生命」や「地球」を柱とする領域においては、大阪府と比較して±1ポイントであり差がなかった。

○中学生チャレンジテスト(3年生)

＜成果＞

後日に記載する

＜課題＞

○大阪市英語力調査(GTEC)

＜成果＞

後日に記載する

＜課題＞

【今後に向けて】

○全国学力・学習状況調査

＜国語＞「書くこと」の分野において「天声人語」などを用いて、まずは「書くこと」への苦手意識を取り除きたい。そのうえで、自分の考えを表現する力を授業を通して養う。

＜数学＞「数と式」の分野では、基礎的な計算力を身に着けることが大切であると思われるので、地道な繰り返しの練習が必要になってくる。そこで、基礎計算の問題が載っている小プリントを毎授業の最初に行い、通年で計算問題に取り組む。また、それぞれの生徒で理解度も異なっているため、単元ごとに力試しの章末テストを行い、そのあと振り返りのプリントをさせることで、苦手とする分野を自覚できるようにし、それを補うために習熟度別授業を行っていく。

＜理科＞「粒子」の分野において原子モデルや分子モデルなどを用いて原子や分子の組み合わせや数、化学反応式やについて苦手意識をなくしていきたい。分子や原子、化学反応式について理解したうえで授業で化学変化における量的関係について考えていける思考力を養う。

○中学生チャレンジテスト(3年生)

後日に記載する

○大阪市英語力調査(GTEC)

後日に記載する